〔平成２９(2017)年２月２７日〕

日本経済新聞

精子つくる働き 遺伝子を発見

■東京医科歯科大学　浅原弘嗣教授らは、精子をつくる働きがある2つの遺伝子を見つけた。マウスを使った実験で、2つの遺伝子のうち両方を働かないようにしたオスからは子どもが生まれなかった。男性不妊の仕組みの解明や治療などの手がかりになるとみている。

研究グループはＺｆｙ１とＺｆｙ２と呼ぶ2つの遺伝子に注目。2つの遺伝子のうち、どちらか片方、もしくは両方とも失ったマウスをつくった。片方の遺伝子が働かないオスからは子どもが生まれたが、両方を失ったオスの精子は受精しても途中で細胞の分裂が止まった。

精子の働きを顕微鏡で観察したところ、2つの遺伝子を働かなくしたオスの精子は形がいびつになって動きがにぶくなり、卵子までたどり着く確率が下がった。この精子を調べると、精子の形を保ったり、受精卵の細胞分裂を促したりする遺伝子の働きが通常と比べて弱まっていた。